

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	31301302	
事務事業名	高齢者教育事業	
予算書の事務事業名	7.高齢者教育事業	
事業期間	開始年度	昭 and 53年度
	終了年度	
	当面継続	
	業務分類	5. ソフト事業
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行	<input type="radio"/> 2. アウトソーシング
	<input type="radio"/> 3. 負担金・補助金	<input checked="" type="radio"/> 4. 市直営

部・課・係名等	コード1	08030100
部名等	教育委員会事務局	
課名等	生涯学習・スポーツ課	
係名等	生涯学習係	
記入者氏名	谷 恵理子	
電話番号	0765-23-1045	

政策体系上の位置付け	コード2	313013
政策の柱	第3章 人・文化を育むまち	
政策名	第1節 明日の魚津を築くひとづくり	
施策名	3. 生涯学習の推進	
区分	生涯学習	
基本事業名	参加しやすい学習環境づくり	

予算科目	コード3	001100501
会計	一般会計	
款	10. 教育費	
項	5. 社会教育費	
目	1. 社会教育総務費	

◆事業目的・概要 (どのような事業か) 技能を持った高齢者を地域の高齢者学級等に派遣し、その知識を社会に生かしてもらうことを目的とする。		単位	実績		計画			
			20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) 市内の高齢者	① 高齢者数	人	11,967	12,197			
		② 高齢者学級登録者数	人	2,025	1,643			
		③						
手段	<平成21年度の主な活動内容> 高齢者人材登録者研修会 4回 (派遣講師育成) 高齢者学習活動促進会議 4回、研修会 2回	① 人材登録者数	人	35	34			
	*平成22年度の変更点 高齢者事業を公民館活動振興事業に組み込む。 人材登録者事業は生涯学習振興事業に組み込み、人材育成に努める。	② 登録者の高齢者学級延べ派遣件数	件数	45	47			
		③						
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) 高齢者学級に参加する高齢者が増加し、また受講後に高齢者人材登録し、講師等の活動を行い得た知識を社会へ還元する高齢者が増える。	① 高齢者学級延べ参加者数	人	6,484	6,451			
		② 新たに登録した人材登録者数	人	1	1			
		③						
その結果	<施策の目指すすがた> 学ぶことへの意欲をさらに高め、市民一人ひとりが充実した生活を送っています。	↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入						
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 昭和53年度から、各地区公民館の高齢者学級の講師として技能を持った高齢者を派遣することから始まった。 その後国庫補助を受け、高齢者の生涯学習活動を推進する事業として、人材登録、活動推進会議が進められた。		財源内訳	(千円)	0	0			
		(1)国・県支出金	(千円)	0	0			
		(2)地方債	(千円)	0	0			
		(3)その他 (使用料・手数料等)	(千円)	0	0			
		(4)一般財源	(千円)	183	160			
		A. 予算 (決算) 額 ((1)~(4)の合計)	(千円)	183	160	0	0	0
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 急速な高齢化の進展により、対象である高齢者数は増加している。しかし、高齢者学級の母体である老人クラブは新規参加者が増えず、参加者の固定化、減少傾向にある。今後予想される高齢者の生活スタイル、学習ニーズに合わせた高齢者学級の見直しが必要である。 高齢者人材登録者も高齢化、固定化が進み、学習内容も変化がないため、今後の高齢者学級の学習ニーズに対応するには、新規参加者の掘り起こしや人材育成のためのリーダー研修が必要である。		①事務事業に携わる正規職員数	(人)	2	2			
		②事務事業の年間所要時間	(時間)	62	100			
		B. 人件費 (②×人件費単価/1,000)	(千円)	261	421	0	0	0
		事務事業に係る総費用 (A+B)	(千円)	444	581	0	0	0
		(参考) 人件費単価	(円/時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質などを記入) 高齢者学級長や学級主事からも、参加者の固定化や減少傾向に対する危機感は頻りに寄せられる。教室の内容のマンネリ化や男性高齢者の参加推進に対しても、指導援助できるリーダーが不在である。		◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)					
		<input checked="" type="radio"/> 把握している	どこの市町村でも指導者の高齢化、マンネリ化等の理由があり、新たな人材登録者の育成に悩んでいる。					
		<input type="radio"/> 把握していない						

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 人材登録者を育てることは、高齢者の生涯学習に直結しており、学がことへの意欲をさらに高める。
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、どのように見直す余地があるか説明)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明)	
あり	説明 今後、団塊世代で高い技能を持った人を講師に育成することにより、新たに人材登録する人を増やし、高齢者学級に参加する人の増加を図ることができる。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
あり	説明 高齢者事業を公民館活動振興事業に組み込み、地区ごとに活動を促進する。 人材登録者事業は生涯学習振興事業に組み込み、総合的に人材を育成する。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 最低限の事業費である。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 もともとボランティア的な要素が強く、作業時間も最低限なので削減の余地はない。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地 (過去の見直しや社会経済状況等から)	
特定受益者あり・負担なし 適正化の余地なし	説明 受益者は特定できるが、人材登録者の育成はボランティア要素が高く、受益者負担はなじまない。
9. 本市の受益者負担の水準 (県内他市と比較し、今後のあり方について説明)	
<input type="radio"/> 高い <input checked="" type="radio"/> 平均 <input type="radio"/> 低い	説明 無料としているところが多い。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ (この事務事業にどれくらいのニーズがあるか)	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input checked="" type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input checked="" type="radio"/> 緊急性は低いが、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

1) 評価結果の総括					
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり				
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり				
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり				
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり				
2) 今後の事務事業の方向性					
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施 <table border="1" style="float: right;"> <tr> <td>年度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成21年度</td> <td></td> </tr> </table>		年度		平成21年度	
年度					
平成21年度					
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止					
<input checked="" type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携 <input type="radio"/> 目的見直し <input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善					

★ 改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)

		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成23年度)	コストの方向性 維持
	中・長期的 (3～5年間)	成果の方向性 向上

★ 課長総括評価 (一次評価)

教室内容のマナー化を防ぐためにも、新規講師は必要である。地区にいる人材をまずは、地元から活用するようにしむけ、将来的には、人材登録してもらおう体制をとる。	二次評価の要否 不要
---	-------------------

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	31301301	
事務事業名	生涯学習教室等事業	
予算書の事業名	9.生涯学習教室等事業	
事業期間	開始年度	昭和54年度
	終了年度	当面継続
	業務分類	5. ソフト事業
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行	<input type="radio"/> 2. アウトソーシング
	<input type="radio"/> 3. 負担金・補助金	<input checked="" type="radio"/> 4. 市直営

部・課・係名等	コード1	08030100
部名等	教育委員会事務局	
課名等	生涯学習・スポーツ課	
係名等	生涯学習係	
記入者氏名	谷 恵理子	
電話番号	0765-23-1045	

政策体系上の位置付け	コード2	313013
政策の柱	第3章 人・文化を育むまち	
政策名	第1節 明日の魚津を築くひとづくり	
施策名	3. 生涯学習の推進	
区分	生涯学習	
基本事業名	参加しやすい学習環境づくり	

予算科目	コード3	001100501
会計	一般会計	
款	10. 教育費	
項	5. 社会教育費	
目	1. 社会教育総務費	

	◆事業目的・概要 (どのような事業か)	単位	実績		計画				
			20年度	21年度	22年度	23年度	24年度		
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) 市民	① 市民	人	46,036	45,562	45,000	45,000	45,000	
手段	<平成21年度の主な活動内容> 新川学びの森天神山交流館、勤労青少年ホームの2箇所で開催し、12教室120名の市民が受講し、修了証を交付した。 生涯学習教室友の会(修了生による自主サークル)は15教室あり、生涯学習発表大会に参加した。 ハートフルセミナー(第1回魚津の歴史、第2回パナソニック工場見学、第3回パナソナルカラー講演会)の開催 *平成22年度の変更点 生涯学習教室の募集チラシの配布 生涯学習発表大会に公民館生涯学習教室の参加 〇〇魚津など市民が多く参加する場で体験コーナーを設け、生涯学習教室をPRする	① 開催教室数 ② 友の会 ③ 発表大会	教室 教室 回	11 9 2	12 15 1	15 10 1	15 10 1	15 10 1	
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) 市民が、人間性豊かな生活を営むための生きがい活動のきっかけづくりを進める。	① 生涯学習教室受講生 ② 友の会会員数 ③ 生涯学習発表大会参加者	枚 人 人	144 122 237	120 199 316	150 150 300	150 150 300	150 150 300	
その結果	<施策の目指すがた> 学ぶことへの意欲をさらに高め、市民一人ひとりが充実した生活を送っています。	↑成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入							
◆この事務事業開始のきっかけ(何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) きっかけはわからないが、昭和54年度から開始している。			財源内訳	(千円)	0	0	0	0	0
			(1)国・県支出金	(千円)	0	0	0	0	0
			(2)地方債	(千円)	0	0	0	0	0
			(3)その他(使用料・手数料等)	(千円)	599	317	500	500	500
			(4)一般財源	(千円)	748	461	997	997	997
			A. 予算(決算)額((1)~(4)の合計)	(千円)	1,347	778	1,497	1,497	1,497
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化(法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 開始当初から、高齢者向けの趣味の教室を主流として開講してきたが、社会情勢の変化や市民の学習ニーズの高度化に伴い、教室内容を検討しなければならぬ時期にきている。			①事務事業に携わる正規職員数	(人)	2	2	2	2	2
			②事務事業の年間所要時間	(時間)	632	500	632	632	632
			B. 人件費(②×人件費単価/1,000)	(千円)	2,658	2,103	2,658	2,658	2,658
			事務事業に係る総費用(A+B)	(千円)	4,005	2,881	4,155	4,155	4,155
			(参考)人件費単価	(円/時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見(担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質などを記入) 教室生は、同じ講師のもとでより長く継続して学びたいという希望が強い。 受講生から教室の会場として新川学びの森交流館は、場所として不便だという意見がある。			◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)					
			<input checked="" type="radio"/> 把握している	新川地区の生涯学習状況については把握している。					
			<input type="radio"/> 把握していない						

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すすがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 市民の学習意欲を高め、学習の機会を与えるためには、導入部として市が関与する必要があり、施策への直結度は大。
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) のため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、どのように見直す余地があるか説明)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。短期コースや夜間の講座を増やし、勤労者や若年層も取り込む。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明)	
あり	説明 新規受講生を増やすため、同じ講座を続けていくのではなく時代に合った魅力ある講座を開く。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
あり	説明 ふれあい講座など生涯学習として一本化することにより情報を集約することができる。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
あり	説明 新川学びの森神山交流館を中心に活動を行っているため、生涯学習発表大会も新川文化ホールから新川学びの森神山交流館に変更することにより会場使用料を削減できる。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 最低限の業務時間で行っており、削減の余地なし。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地 (過去の見直しや社会経済状況等から)	
特定受益者あり・負担あり 適正化の余地なし	説明 今まで受講料を無料としていたが、平成20年度から受講料を月額500円とした。
9. 本市の受益者負担の水準 (県内他市と比較し、今後のあり方について説明)	
<input type="radio"/> 高い <input checked="" type="radio"/> 平均 <input type="radio"/> 低い	説明 他市と同様に必要実費相当のみ徴収している。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ (この事務事業にどれくらいニーズがあるか)
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input checked="" type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない
11. 事務事業実施の緊急性
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input checked="" type="radio"/> 緊急性は低い、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない

★ 評価結果の総括と今後の方向性

1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施	年度
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input checked="" type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携 <input type="radio"/> 目的見直し <input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★ 改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)

実施予定時期	次年度 (平成23年度)	学びの森神山交流館を生涯学習の拠点とし、生涯学習教室・生涯学習発表大会を開催する。拠点を一つにすることにより、情報の集約化・経費の削減ができる。	コストと成果の方向性
			削減
	中・長期的 (3～5年間)	団塊の世代・若年層に向けての教室を開催 学びの森神山交流館へ委託または県民カレッジと共催	成果の方向性
			向上

★ 課長総括評価 (一次評価)

市で実施する生涯学習教室は、生涯学習のきっかけづくりである。そのため、新規受講生の入りやすい環境整備をすすめる。 具体的には、毎年度で、終了。修了生の自主サークルへの移行支援を行い、自立させる。 市としては、地区公民館、学びの森神山交流館、その他の施設が行っているそれぞれの生涯学習事業のネットワーク化を図り、市民が利用し易いよう情報提供し、生涯学習を推進していくのが望ましい。	二次評価の要否 不要
---	-------------------

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	31301303	
事務事業名	図書館教養・普及事業	
予算書の事業名	4. 教養・普及事業	
事業期間	開始年度	平成17年度
	終了年度	当面継続
	業務分類	5. ソフト事業
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行	<input type="radio"/> 2. アウトソーシング
	<input type="radio"/> 3. 負担金・補助金	<input checked="" type="radio"/> 4. 市直営

部・課・係名等	コード1	09050100
部名等	(教育機関)	
課名等	図書館	
係名等	図書係	
記入者氏名	谷越 愛子	
電話番号	0765-22-0462	

政策体系上の位置付け	コード2	313013
政策の柱	第3章 人・文化を育むまち	
政策名	第1節 明日の魚津を築くひとづくり	
施策名	3. 生涯学習の推進	
区分	生涯学習	
基本事業名	参加しやすい学習環境づくり	

予算科目	コード3	001100503
会計	一般会計	
款	10. 教育費	
項	5. 社会教育費	
目	3. 図書館費	

◆事業概要 (どのような事業か)				実績		計画			
歴史講座・お話し会・お楽しみ会・シネマ倶楽部などの開催 図書館教室 (古文書解説会・読書会など) の開催		単位	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度		
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) 市民及びその事業に興味を持って参加される市民以外の方	対象指標	① 魚津市人口	人	46,036	45,562	45,500	45,500	45,500
			②						
			③						
手段	<平成21年度の主な活動内容> 歴史講座 (受講料無料)、ふるさと歴史講演会 (受講料無料)、お話し会、こども向けイベントとしてお楽しみ会、おはなし玉手箱、図書館教室 (古文書解説会、草かなで読む読書会、魚津読書会、時事英語を読む会、川柳教室)、おりがみ教室、図書館コンサート、魚津高校放送部による発表会 (ライブ・イン・ライブラリー) *平成22年度の変更点 新図書館開館5周年、また国民読書年であることを踏まえ、「魚津のふるさと文学講座」やこども向けイベントを行事を行う。	活動指標	① 図書館教室開講数	回	71	69	70	70	70
			② お話し会開催数	回	60	61	60	60	60
			③ 各種集会回数	回	18	39	40	40	40
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) 図書館の資料や設備を利用して、多くの市民が生涯学習の意欲や楽しみを持つことができる。	成果指標	① 図書館教室参加人数	人	789	946	750	750	750
			② お話し会参加人数	人	1,605	1,462	1,500	1,500	1,500
			③ 各種集会参加人数	人	973	1,385	1,400	1,400	1,400
その結果	<施策の目指すがた> 図書館を市民にとって、身近で親しみやすい場所にする。本の閲覧・貸借だけでなく、生涯学習の場として活用してもらえるようにする。	↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入							
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 図書館教室は10年以上前から。お話し会、こども読書年の翌年2001年から始まり、新館オープンによりお話しコーナーができたことで、週1回の開催となった。お話し玉手箱は新館になってから開始。図書館が新しくなり、各種集会の開催が増えた。		財源内訳	(1)国・県支出金 (千円)		0	0	0	0	0
			(2)地方債 (千円)		0	0	0	0	
			(3)その他(使用料・手数料等) (千円)		72	181	100	100	100
			(4)一般財源 (千円)		13	27	168	168	168
			A. 予算(決算)額(①~④の合計) (千円)		85	208	268	268	268
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 教養教室は若い人の参加と新規入会が少ない。参加者の高齢化により、教室の維持が難しくなると思われる。おはなし会やお話し会など参加者が多い定番となる人気行事ができた。駐車場が狭いため、集客が見込める時間帯、曜日に行事・集会ができない。資料利用者の駐車場利用を圧迫している。平成22年度よりおりがみ教室の定員削減及び開催時間の変更を余儀なくされた。			①事務事業に携わる正規職員数 (人)		2	3	3	3	3
			②事務事業の年間所要時間 (時間)		600	800	800	800	800
			B. 人件費 (②×人件費単価/千円)		2,523	3,364	3,364	3,364	3,364
			事務事業に係る総費用 (A+B) (千円)		2,608	3,572	3,632	3,632	3,632
			(参考) 人件費単価 (円/時間)		4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) お話し会は、毎回楽しみにする参加者も多く、固定参加者も多い。おりがみ教室は、マスコミにも取り上げられ、参加者も多く喜ばれている。歴史講座は、毎回参加者が多い。図書館アート事業 (H21) での図書館と美術作品の展示が、雰囲気がい、楽しい、またしてほしいと好評の声が多かった。ライブラリーは、地域の高校生の活躍を紹介する事業として、マスコミ、来館者から好評を得た。平成22年3月議会定例会で、国民読書年行事に関する質問があった。		◆県内他市の実施状況	<input type="radio"/> 把握している	➡	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄) 「富山県の公共図書館」(統計)により、おおまかな実施数などはわかるが内容や評価がわからない。				
			<input checked="" type="radio"/> 把握していない						

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 社会教育施設として資料の提供に限らず、資料を活用して生涯学習の推進に直接寄与している。図書館という市民にもっとも身近な施設で、多くの人が気軽に、生涯学習活動への参加している。
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input checked="" type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) のため、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	社会教育法 (昭和24年法律第207号) 第5条
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明)	
あり	説明 マンネリ化しないように、既存の行事の内容を見直して充実させたり、図書館が主催する行事を増やす。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
あり	説明 図書館ボランティア事業。ボランティアの参加による行事の運営。ボランティアの知恵と力で行事をより魅力的に展開できる。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 図書館に興味をもってもらうためにも、魅力あるイベントを積極的に企画する必要がある。現在、ボランティアの方の協力で行っている行事もあるが、企画や行事を充実させればさせるほど、支援する職員の負担は増加すると考えられるので削減はできない。県事業の補助を可能な限り受ける等して限られた事業費でより良い行事を行えるよう工夫している。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 図書館に興味をもってもらうためにも、魅力あるイベントを積極的に企画する必要がある。現在、ボランティアの方の協力で行っている行事もあるが、企画や行事を充実させればさせるほど、支援する職員の負担は増加すると考えられるので削減はできない。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地 (過去の見直しや社会経済状況等から)	
特定受益者あり・負担あり 適正化の余地なし	説明 材料費がかかる大人向けの行事については実費分の費用負担をしてもらっている。(コピー代、おりがみ材料費等)
9. 本市の受益者負担の水準 (県内他市と比較し、今後のあり方について説明)	
<input type="radio"/> 高い <input checked="" type="radio"/> 平均 <input type="radio"/> 低い	説明 材料費がかかる大人向けの行事については実費分の費用負担をもらっている。(コピー代、おりがみ材料費等)

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ (この事務事業にどれくらいのニーズがあるか)	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input checked="" type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input checked="" type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input type="radio"/> 緊急性は低いが、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

1) 評価結果の総括					
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり				
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり				
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり				
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり				
2) 今後の事務事業の方向性					
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施 <table border="1" style="float: right;"> <tr> <td>年度</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>		年度			
年度					
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止					
<input checked="" type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携 <input type="radio"/> 目的見直し <input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善					

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成23年度)	既存の教室、行事の内容を見直す。 コストの方向性 維持
	中・長期的 (3～5年間)	マンネリ化しないように常に事業の見直しをしながら、よりよい企画を考える。 新規行事を企画する。 成果の方向性 向上

★課長総括評価 (一次評価)

ほとんど経費をかけておらず、毎年開講している教室等は指導者、教室参加者の自主的な運営に任せている。事業を見直す場合は、今以上の職員の関与と経費増が予想されるので、新規の教室の開講等は困難である。また、各種講座、公演についても職員が主体となって謝金等の支出を抑制しており、行事等の拡大は今の職員数では不可能である。	二次評価の要否 不要
--	---------------

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	31301304	
事務事業名	図書館ボランティア事業	
予算書の事業名	5. 図書館ボランティア事業	
事業期間	開始年度	平成17年度
	終了年度	当年度
	当面継続	業務分類
		5. ソフト事業
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行	<input type="radio"/> 2. アウトソーシング
	<input type="radio"/> 3. 負担金・補助金	<input checked="" type="radio"/> 4. 市直営

部・課・係名等	コード1	09050100
部名等	(教育機関)	
課名等	図書館	
係名等	図書係	
記入者氏名	沖本 信子	
電話番号	0765-22-0462	

政策体系上の位置付け	コード2	313013
政策の柱	第3章 人・文化を育むまち	
政策名	第1節 明日の魚津を築くひとづくり	
施策名	3. 生涯学習の推進	
区分	生涯学習	
基本事業名	参加しやすい学習環境づくり	

予算科目	コード3	001100503
会計	一般会計	
款	10. 教育費	
項	5. 社会教育費	
目	3. 図書館費	

◆事業概要 (どのような事業か)				実績		計画			
図書ボランティア (朗読録音・書架整理・リサイクル図書・交流誌発行・読み聞かせ・手作りバッグ・おりがみ) の運営。ボランティア活動に必要な知識や技術を学ぶための研修会や勉強会の開催		単位	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度		
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) 図書館ボランティア登録者	対象指標 ① ② ③	① 図書館ボランティア登録者数	人	75	79	80	80	80
手段	<平成21年度の主な活動内容> 各ボランティアの運営、紙芝居の実演講習会の実施、読み聞かせボランティアの新団体「ソロブチミストひまわりの会」の活動開始 (H20.4~)、活動誌の発行 *平成22年度の変更点 事業として行っていた「はじめての絵本事業」は配布用絵本の購入予算がないため、ボランティア事業となった。実施ボランティア「ベビーブックの会」へ配布絵本購入として寄付があり、ボランティア団体が絵本を買って配ることになった。24時間テレビチャリティ委員会が視聴覚障害者向け音訳機器を寄贈する予定で、音訳ボランティアの活動を充実していく。	活動指標 ① ② ③	① ボランティア学習会・研修会回数 ② ボランティアが活動する行事回数	回	27	27	20	20	20
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) ボランティアが主体的に活動できるようにするため、各活動に必要な知識や技能の習得と向上をはかる。図書館でも活動の趣旨を理解し楽しみややりがいを持って活動を行うことができる。	成果指標 ① ② ③	① ボランティア学習会・研修会参加人数 ② ボランティアが活動する行事への参加者数	人	339	253	300	300	300
その結果	<施策の目指すすがた> 学ぶことへの意欲を高め、市民一人ひとりが充実した生活を送る。 地域活動を通して活力ある地域づくりを進める。 社会教育施設の整備・充実。	↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入							
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 新図書館開館に伴い、既存のボランティア (絵本の読み聞かせ、朗読録音テープの作成、ブックスタート、バッグ作成) に加え、リサイクル図書の整理、書架整理のボランティア、活動誌編集の分野でボランティアを導入。平成19年度からおりがみ教室の運営補助のボランティアを導入。それまでもボランティア活動の運営業務はあったが、分野が多岐にわたることや登録者の人数が大幅に増加したことを考慮し、平成18年度からボランティア活動をより良い環境で、有意義に、そして長く継続してもらうための事業を予算化した。		財源内訳	(1)国・県支出金 (千円)	0	0	0	0	0	
			(2)地方債 (千円)	0	0	0	0		
			(3)その他(使用料・手数料等) (千円)	134	0	0	0		
			(4)一般財源 (千円)	63	114	0	0		
			A. 予算(決算)額(①~④の合計) (千円)	197	114	0	0		
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 新図書館オープン時には、市民の関心も高く、ボランティア活動も積極的であるが、人々の関心が薄れた時にどれだけボランティアの協力を得られるか心配である。できるだけ長く続けていただくためにも、楽しみややりがいのある活動となるよう職員のかめ細かなサポートが必要と考えられる。予算の減額のため平成22年度から予算上計上していない。			①事務事業に携わる正規職員数 (人)	1	1	1	1		
			②事務事業の年間所要時間 (時間)	200	200	200	200		
			B. 人件費 (②×人件費単価/千円)	3,288	841	841	841		
			事務事業に係る総費用 (A+B) (千円)	3,485	955	841	841		
			(参考) 人件費単価 (円/時間)	4,205	4,205	4,205	4,205		
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) ボランティア活動に対し、お茶やジュース等の飲み物だけでも欲しいとの声があり、読み聞かせや夏場などに図書館ボランティアの活動 (読み聞かせ、交流誌編集、朗読録音など) が新聞やテレビに取り上げられて、がんばっていると好評の声もあがっている。		◆県内他市の実施状況	<input type="radio"/> 把握している <input checked="" type="radio"/> 把握していない	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄) 読み聞かせにはボランティアが参加している館が比較的数量があるようだが数字を把握していない。射水中央 (旧小杉) が積極的に導入しているようである。					

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 市民がいきいきと活動しながら、図書館でのボランティア参加を通じて地域づくりを進めている。
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明)	
あり	説明 外部講師を招いて研修会や勉強会を行うことで、ボランティアの資力が向上しモチベーションも上がる。講習は新規ボランティアの獲得にも有効である。職員の関与が不可欠であり適切なフォローによって良好な関係のもと活動が長続きする。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
あり	説明 図書館教養・普及事業。ボランティアの参加によって多彩な行事の実施と来館者増が望める。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 現在の予算では、専門的な講師を招くことは困難。材料費などの経費をボランティアに求めることは無理である。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 ボランティアが主体となる行事であっても主体としての図書館の関与は必須であり、ボランティア活動が活発になるほど職員の負担は増える。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地 (過去の見直しや社会経済状況等から)	
特定受益者なし・負担なし	説明 行政がボランティアから受益あり。
適正化の余地なし	
9. 本市の受益者負担の水準 (県内他市と比較し、今後のあり方について説明)	
<input type="radio"/> 高い <input checked="" type="radio"/> 平均 <input type="radio"/> 低い	説明 ボランティアの円滑な活動のために、事務用品や活動機材の提供をもっとおこなう必要あり。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ (この事務事業にどれくらいニーズがあるか)	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input checked="" type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input checked="" type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input type="radio"/> 緊急性は低い、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	年度
<input checked="" type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携 <input type="radio"/> 目的見直し <input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★ 改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)

実施予定時期	次年度 (平成23年度)	ボランティア参加の促進 (来館者、市民へ呼びかけ)。特に朗読録音ボランティアは、ボランティアをさらに募集し、24時間テレビチャリティ委員会寄付の機器を活用して活動内容を充実していく。ブックスタートボランティアは、配布絵本がない場合、4ヶ月児への読み聞かせ活動を行う。	コストと成果の方向性 コストの方向性 維持
	中・長期的 (3~5年間)	既存ボランティア団体の自主的で安定した活動を目指す。参加しやすいメニューの見直し、設定によって、ボランティア活動の促進を図る。外部講師、専門家を招いての講習会の実施。一方でボランティア活動が活発になるほど、運営方針を明確にし行政のきめ細かいサポートが必要になる。職員の配置、図書館全体でのサポート体制が必須である。	成果の方向性 向上

★ 課長総括評価 (一次評価)

ボランティア活動は団塊世代の大量退職にともない、人員の供給過多が予想されるが、生涯学習の観点からは今後活動の場の提供が課題となっている。図書館では平成17年度以降ボランティアの登録数が増加しており、図書館利用者へサービスとボランティア参加者自体の学習の場として機能している。しかし、個々のボランティア活動を行政が主導で立ち上げた経緯があり、事務連絡や会合等の準備など職員の関与の割合が高い。ボランティア活動が活発になればなるほど職員が係わる時間数が増えており、現在の体制では限界に近い。	二次評価の要否 不要
---	---------------

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	24402207	
事務事業名	はじめての絵本事業	
予算書の事業名	なし	
事業期間	開始年度	平成15年
	終了年度	21年予定
	業務分類	5. ソフト事業
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行	<input type="radio"/> 2. アウトソーシング
	<input type="radio"/> 3. 負担金・補助金	<input checked="" type="radio"/> 4. 市直営

部・課・係名等	コード1	09050100
部名等	(教育機関)	
課名等	図書館	
係名等	図書係	
記入者氏名	沖本 信子	
電話番号	0765-22-0462	

政策体系上の位置付け	コード2	313013
政策の柱	第3章 人・文化を育むまち	
政策名	第1節 明日の魚津を築くひとづくり	
施策名	3. 生涯学習の推進	
区分	生涯学習	
基本事業名	参加しやすい学習環境づくり	

予算科目	コード3	000000000
会計	該当なし	
款	該当なし	
項	該当なし	
目	該当なし	

◆事業概要 (どのような事業か)				実績		計画			
絵本を通して、赤ちゃんと保護者が、楽しい時間を分かち合うことを応援する子育て支援及び家庭教育推進事業。市健康センターで実施される4ヶ月児健診に参加したすべての赤ちゃんとその保護者に読み聞かせのアドバイスを行い、絵本をプレゼントする。なお、イギリスではじまったこのような取り組みをブックスタートという。		単位	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度		
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) 4ヵ月児とその保護者	対象指標	① 4ヵ月児と保護者数	人	361	311	400	400	400
手段	<平成21年度の主な活動内容> ・4ヵ月健診時でのボランティアによる読み聞かせ ・ブックスタートボランティアの募集 ・ボランティアと職員の研修 ・おすすめ絵本のリスト作成 *平成22年度の変更点 配布用絵本の購入予算がないため、ボランティアへの寄附によって運用となり事業主体はボランティアであるため「ボランティア事業」へ統合した。	活動指標	① ブックスタートバック配布数 ② 延べボランティア参加者数 ③ 研修会開催数	個 人 回	361 188 1	311 150 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) ①絵本を通して親子のスキンシップを図ることができる。 ②本が持つ人間性を豊かにする特性を理解できるようになる。	成果指標	① 読み聞かせでスキンシップを図れた親子の数と割合 ② 本の持つ特性を理解できた保護者の数と割合 ③	% %	0.00 0.00	0.00 0.00	0.00 0.00	0.00 0.00	0.00 0.00
その結果	<施策の目指すすがた> 未就学児の教育内容が充実し、健全な心身が育成されています。	↑成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入							
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 平成13年12月に子どもの読書活動推進法ができて、子どもと読書を通じた子どものこころの健全育成が注目されるようになった。議会でも質問があり、子育て支援に対しての啓発の手段として有効であるとの判断から平成15年度から開始した。		財源内訳	(1)国・県支出金 (千円)	0	0	0	0	0	0
			(2)地方債 (千円)	0	0	0	0	0	
			(3)その他(使用料・手数料等) (千円)	0	0	0	0	0	
			(4)一般財源 (千円)	242	0	0	0	0	
			A. 予算(決算)額(①~④の合計) (千円)	242	0	0	0	0	
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化(法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 平成16年度末に魚津市子ども読書推進計画が策定された。知識を深め、心を豊かにする読書の良さについて、子どもたちを取り巻く親、学校、地域、行政がより関心をもつようになった。 市の財政難をうけ無料配布が困難。			①事務事業に携わる正規職員数 (人)	1	0	0	0	0	
			②事務事業の年間所要時間 (時間)	200	0	0	0	0	
			B. 人件費 (②×人件費単価/千円)	841	0	0	0	0	
			事務事業に係る総費用 (A+B) (千円)	1,083	0	0	0	0	
			(参考) 人件費単価 (円/時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205	
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 保護者からは、4ヵ月のあかちゃんに読み聞かせの効果があるか不安だったが、実際にやってみるとしっかりと読み聞かせの効果が感じられ、驚いたという声が届いている。アンケート実施した結果「絵本の好きな子に育ってよかった。」・「触れ合うきっかけになった。」等色々な良い意見を聞くことができた。「無料で絵本を配るくらいなら、図書館の児童書を充実してほしい」という意見あり。		◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄) 県内ではほかに4団体(高岡市、射水市、小矢部市、立山町)が実施している。						
		<input checked="" type="radio"/> 把握している							
		<input type="radio"/> 把握していない							

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input type="radio"/> 直結度大 <input checked="" type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 4ヶ月児とその保護者が絵本を通じてスキミングが深まることで、子どもの健全な心身育成に結びつく。
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明)	
なし	説明 すでに一定の成果は出ている。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
あり	説明 図書館ボランティア事業。ボランティアさんの活動で事業が行われている。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
あり	説明 絵本を無料配布できるようにしたことはないが、読み聞かせで絵本の重要性、ブックスタートの意義を伝えることができる。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
あり	説明 事業の大半をボランティアで運営している。ボランティアの調整として職員の関与は必要。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地 (過去の見直しや社会経済状況等から)	
特定受益者あり・負担なし 適正化の余地なし	説明 検診時に実施するため対象者にはほぼもれなく配布している。対象者に限れば特定の受益者はいない。
9. 本市の受益者負担の水準 (県内他市と比較し、今後のあり方について説明)	
<input type="radio"/> 高い <input checked="" type="radio"/> 平均 <input type="radio"/> 低い	説明 実施自治体は無料で配布している。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ (この事務事業にどれくらいのニーズがあるか)	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input checked="" type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input type="radio"/> 緊急性は低い、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input checked="" type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

1) 評価結果の総括			
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり		
② 有効性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 成果向上の余地あり		
③ 効率性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> コスト削減の余地あり		
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり		
2) 今後の事務事業の方向性			
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施 <table border="1" style="float: right;"> <tr> <td>終了年度</td> <td>平成21年度</td> </tr> </table>		終了年度	平成21年度
終了年度	平成21年度		
<input checked="" type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止 <table border="1" style="float: right;"> <tr> <td>終了年度</td> <td>平成21年度</td> </tr> </table>		終了年度	平成21年度
終了年度	平成21年度		
<input type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携 <input type="radio"/> 目的見直し <input type="radio"/> 事務事業のやり方改善			

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成23年度)	平成22年度から図書館ボランティア事業へ統合。 コストの方向性 削減
	中・長期的 (3~5年間)	平成22年度から図書館ボランティア事業へ統合。 成果の方向性 維持

★課長総括評価 (一次評価)

子育て支援事業としてそれなりの評価はあったが、図書館の基幹である図書購入費も削減せざるを得ない状況で、平成21年度か予算措置をしていなし。貸し出す本も充分に買えない状況で本の無料配布はできない。ボランティア事業として4ヶ月児に対する読み聞かせ活動は継続する。	二次評価の要否 不要
---	---------------

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	31580030				
事務事業名	水族博物館事業				
予算書の事業名	3.博物館事業				
事業期間	開始年度	昭和56年	終了年度	当面継続	業務分類
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営				

部・課・係名等	コード1	09070200
部名等	(教育機関)	
課名等	水族博物館	
係名等	飼育研究係	
記入者氏名	門田 信幸	
電話番号	0765-24-4100	

政策体系上の位置付け	コード2	313013
政策の柱	第3章 人・文化を育むまち	
政策名	第1節 明日の魚津を築くひとづくり	
施策名	3. 生涯学習の推進	
区分	生涯学習	
基本事業名	参加しやすい学習環境づくり	

予算科目	コード3	010010101
会計	水族館博物館事業特別会計	
款	1. 水族館費	
項	1. 水族館費	
目	1. 水族館管理費	

◆事業概要 (どのような事業か)				実績		計画				
① 水族館の常設展示生物の飼育・管理 ② 常設展示生物の運搬・収集 ③ その他普及活動に関わること				単位	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など)	→	対象指標	① 常設展示生物種数	種	389	333	400	400	400
	② 年間入館者数			人	144,506	154,417	145,000	145,000	145,000	
	③									
手段	<平成21年度の主な活動内容>	→	活動指標	① 展示生物数	点	15,120	13,653	15,000	15,000	15,000
	② 展示生物購入金額			千円	2,825	2,800	2,800	2,800	2,800	
	③ 普及活動参加人数			人	5,140	5,394	5,500	5,500	5,500	
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか)	→	成果指標	① 本年度の展示生物数/前年度の展示生物数	%	100.00	90.30	100.00	100.00	100.00
	② 展示生物購入金額/博物館事業費			%	34.52	35.75	35.75	35.75	35.75	
	③									
その結果	<施策の目指すがた> 学ぶことへの意欲をさらに高め、市民一人ひとりが、充実した生活を送っています。	↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入								
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 対象年の一府八県連合共進会の第2会場として初代魚津水族館が開館。昭和29年に富山産業博覧会の魚津会場として2代目が建設され、昭和56年に現在の三代目が開館した。				財源内訳	(千円)	0	0	0	0	0
				(1)国・県支出金	(千円)	0	0	0	0	0
				(2)地方債	(千円)	0	0	0	0	0
				(3)その他(使用料・手数料等)	(千円)	6,774	7,030	7,600	7,600	7,600
				(4)一般財源	(千円)	0	0	0	0	0
				A. 予算(決算)額(①~④の合計)	(千円)	6,774	7,030	7,600	7,600	7,600
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など)				①事務事業に携わる正規職員数	(人)	2	2	1	1	1
① 施設老朽化 ② 近隣の水族館、博物館の増設やリニューアル ③ 少子化				②事務事業の年間所要時間	(時間)	1,000	1,000	500	500	500
				B. 人件費 (②×人件費単価/千円)	(千円)	4,205	4,205	2,103	2,103	2,103
				事務事業に係る総費用 (A+B)	(千円)	10,979	11,235	9,703	9,703	9,703
				(参考) 人件費単価	(円@時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 議会：入館者増。ペンギン展示の工夫				◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)					
				● 把握している	比較できる施設がない。					
				○ 把握していない						

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	水族館を通して水生生物に興味をわき、学習意欲が促進され、生涯学習が推進できる。
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明)	
なし	適切

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明)	
あり	職員の調査研究や技術の向上に伴い、成果は上がると思われる。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
あり	市内の博物館と連携をとることで展示・集客効果が高まる可能性はある。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	事業費は展示生物や普及活動にかかるもので、削減はできない。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	職員は、交代勤務であり半数しか常時勤務していない。展示水槽の維持管理・普及活動のことを考えると人員削減は入館者および市民サービスに影響が出てくるので削減の余地なし。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地 (過去の見直しや社会経済状況等から)	
特定受益者なし・負担なし	当館は市で運営しているため、他の市町村と区別して、市民に還元する必要がある。
適正化の余地なし	
9. 本市の受益者負担の水準 (県内他市と比較し、今後のあり方について説明)	
<input type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 平均 <input checked="" type="radio"/> 低い	市民へのフィードバックは今後、より一層必要となる。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ (この事務事業にどれくらいのニーズがあるか)	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input checked="" type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input checked="" type="radio"/> 緊急性は低い、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

(1) 評価結果の総括	
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり
(2) 今後の事務事業の方向性	
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施	
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	
<input checked="" type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携	
<input type="radio"/> 目的見直し	
<input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成23年度)	コストの方向性 維持
	中・長期的 (3~5年間)	成果の方向性 向上

★課長総括評価 (一次評価)

他水族館との差別化を図るためにも、より地元の生物に展示内容を特化させ、展示方法・解説等にもさらに工夫を重ねる。 また、市内小学校へのアウトリーチ活動 (出前水槽・サケの水槽クリニックなど) や講師派遣など、学校との連携をさらに深めていく必要がある。	二次評価の要否 不要
---	---------------

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	31580040	
事務事業名	水族博物館企画展事業	
予算書の事業名	4. 企画展事業	
事業期間	開始年度 昭和59年	終了年度 当面継続
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行 <input type="radio"/> 2. アウトソーシング <input type="radio"/> 3. 負担金・補助金 <input checked="" type="radio"/> 4. 市直営	
	業務分類	5. ソフト事業

部・課・係名等	コード1	09070200
部名等	(教育機関)	
課名等	水族博物館	
係名等	飼育研究係	
記入者氏名	門田 信幸	
電話番号	0765-24-4100	

政策体系上の位置付け	コード2	313013
政策の柱	第3章 人・文化を育むまち	
政策名	第1節 明日の魚津を築くひとづくり	
施策名	3. 生涯学習の推進	
区分	生涯学習	
基本事業名	参加しやすい学習環境づくり	

予算科目	コード3	010010101
会計	水族館博物館事業特別会計	
款	1. 水族館費	
項	1. 水族館費	
目	1. 水族館管理費	

◆事業概要 (どのような事業か)				実績		計画				
担当者がテーマを選び、特別展会場で展示を行うもの。事業の実施により入館者の増加と水生生物の知識が増える。				単位	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) ① 県民・魚津市民 ② 県外の観光客	→	対象指標	① 年間入館者数	人	144,506	154,417	145,000	145,000	145,000
	②									
	③									
手段	<平成21年度の主な活動内容> 夏の特別展、春のホタルイカ展示、イベント時の特別展示、写生大会の開催 *平成22年度の変更点 水槽クリニック メダカ編の実施。他は同じ	→	活動指標	① 特別展開催期間の入館者数	人	113,656	108,943	120,000	120,000	120,000
	②									
	③									
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) 特別展の実施により水族館に関する知識が高まり、入館者が増加する。また、入館者は水生生物に関する知識と興味が増す。	→	成果指標	① 特別展開催期間中の入館者/年間入館者数	%	79.00	70.50	79.00	79.00	79.00
	②									
	③									
その結果	<施策の目指すがた> 地域で学ぶためのネットワークが構築され、学ぶことを通して気軽に社会参加し、地域活動を通して活力ある地域づくりが進められています。	↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入								
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 昭和59年から実施。入館者の減少に伴い、入館者の多い春のホタルイカの時期と夏休みを中心に開催。夏は毎回テーマを変えて開催している。				財源内訳	(千円)	0	0	0	0	0
				(1)国・県支出金	(千円)	0	0	0	0	0
				(2)地方債	(千円)	0	0	0	0	0
				(3)その他(使用料・手数料等)	(千円)	2,171	2,256	2,431	2,431	2,431
				(4)一般財源	(千円)	0	0	0	0	0
				A. 予算(決算)額(①~④の合計)	(千円)	2,171	2,256	2,431	2,431	2,431
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化(法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 年々、企画展に関わる費用は減少しており、従来は業者に発注していた看板類を職員が作成しなくてはならなくなった。				①事務事業に携わる正規職員数	(人)	2	2	1	1	1
				②事務事業の年間所要時間	(時間)	1,800	1,800	900	900	900
				B. 人件費(②×人件費単価/千円)	(千円)	7,569	7,569	3,785	3,785	3,785
				事務事業に係る総費用(A+B)	(千円)	9,740	9,825	6,216	6,216	6,216
				(参考)人件費単価	(円/時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見(担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 特になし				◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)					
				● 把握している	富山県内の動物園・博物館が独自の企画展を行っている。					
				○ 把握していない						

平成 22 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 21 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 企画展は、入館者に対して生涯学習のきっかけを与える意味が大きく、貢献度は大きい。
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) ため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切である。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明)	
あり	説明 世間の関心ごとを把握することで、成果の向上が望める。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
あり	説明 埋没林博物館、歴史民族博物館や水産業・商工業と連帯した企画をすることで、今より実施効果が高まる。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 世界中の生物が手に入る時代であり常設展示だけでは入館者の増は望めない。そこで、情報の発信源並びに集客の柱となる企画展の削減はできない。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 少ない予算と人員で行っているため、削減はできない。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地 (過去の見直しや社会経済状況等から)	
特定受益者なし・負担なし 適正化の余地あり	説明 企画展は、開催期間中にしか見ることができないのにもかかわらず、入館料は一緒である。企画展やイベント時に特別料金の設定が可能。
9. 本市の受益者負担の水準 (県内他市と比較し、今後のあり方について説明)	
<input type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 平均 <input checked="" type="radio"/> 低い	説明 少ない経費で企画・実施しているため、手作りにしている部分が増えている。職員も交代で休んでおり、担当者も1日企画展に時間を割かれるわけではないので、コストの低下には受益者負担を求めることも必要。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ (この事務事業にどれくらいのニーズがあるか)	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input checked="" type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input type="radio"/> 緊急性は低い、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input checked="" type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

1) 評価結果の総括					
① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり				
② 有効性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり				
③ 効率性	<input checked="" type="radio"/> 適切 <input type="radio"/> コスト削減の余地あり				
④ 公平性	<input type="radio"/> 適切 <input checked="" type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり				
2) 今後の事務事業の方向性					
<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施 <table border="1" style="float: right;"> <tr> <td>年度</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>		年度			
年度					
<input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止					
<input checked="" type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携 <input type="radio"/> 目的見直し <input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善					

★ 改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)

実施予定時期	次年度 (平成23年度)	「ホタルイカ展」「おばけ展」「干支展」を開催予定	コストと成果の方向性 コストの方向性
	中・長期的 (3～5年間)	24年度には魚津市制60周年記念特別展を開催予定。他はニュースやニーズ性を見ながら検討。	成果の方向性 維持 向上

★ 課長総括評価 (一次評価)

企画展の開催により、様々なメディアに新たな情報を発信することができ、また当館自体の宣伝・波及効果が高い。 今後はより斬新で話題性のある企画展の開催が必要である。	二次評価の要否 不要
---	---------------